

昭和利根

第43号

平成19年7月25日 6月定例会



6月定例会で決めたこと.....	2
村の姿勢を問う 2名が一般質問.....	6
議会視察研修報告.....	8
聞きたい知りたいみんなの声.....	11

定例会

6月定例会

6月定例会は、6月7日(木)から13日(水)までの7日間の会期で開催されました。

諮問1件、承認7件、報告4件、議案4件、議員発議として議会委員会条例及び議会会議規則の一部改正、日豪EPA・FTA交渉に対する意見書について上程され、すべて原案のとおり承認・可決しました。

最終日の一般質問では、2名が登壇し村の姿勢を問いました。

定例会開会における議長及び村長のあいさつでは、5月15日に降電の被害に遭われた皆様に対し、お見舞いの言葉が述べられました。

また、行政報告において村長は、長野・山梨3日間の議会行政視察に同行して学んだ循環型農業、若者の定住促進を図りながら、今後とも第4次総合計画に沿って「やさいが元氣、人にやさしい村づくり」に向けて、元氣と活力のある村づくりに更なる努力をしていきたいと述べました。

「昭和の森」指定管理者

グリーンスコール(株)の継続を可決



昭和の森ゴルフ場

昭和の森施設(ゴルフ場・山荘・テニスコート)及びふれあい農園の管理・運営を行う団体として、グリーンスコール株式会社(石井敬治代表取締役)を継続して指定することを決めました。

今年6月30日で3年間の契約期間が満了することから、同社から提出された継続申請書に基づき指定管理者審議会で審議され、本会議において可決しました。指定期間は、平成19年7月1日からの3年間です。(全員賛成)

主な質疑

問 なぜ、公募をしなかったのか。福祉センター等についても公募しないのか。

答 当然公募が前提であるが、事業実績と資産継続の問題を考え継続がよいと思った。今後は、状況を見ながら決めていきたい。

専決処分

区の設置及び組織に関する条例の一部改正

入原上組区と入原下組区を合併して入原区とし、34行政区とするもの。

(全員賛成)

昭和村税条例の一部改正

住宅のバリアフリー改修に伴う固定資産税の減額措置創設に伴う規定の整備など。

(全員賛成)

昭和村国民健康保険税条例の一部改正

基礎課税額(介護納付金課税額を除く)にかかる課税限度額を53万円から56万円に引き上げるもの。

円に引き上げるなど。

(賛成10・反対1)

平成18年度補正予算

一般会計

480万1千円減額

総額

36億4,819万9千円

(全員賛成)

国民健康保険事業特別会計

3万円減額

総額

8億9,860万9千円

(全員賛成)

老人保健事業特別会計

370万9千円増額

総額

7億9,220万5千円

(全員賛成)

介護保険特別会計

250万4千円減額

総額

4億6,848万8千円

(全員賛成)

その他

群馬県市町村総合事務組合
の規約変更 (全員賛成)

人事

人権擁護委員に

今橋憲雄氏を推薦



今橋憲雄氏
(滝久保)

今橋氏は同委員として、
平成10年7月よりご活躍さ
れています。(全員賛成)

発議

議会委員会条例の一部改正

地方自治法の一部改正に
伴い、閉会中における委員
の選任等を議長が行うこと
ができるなど。

議会会議規則の一部改正

地方自治法の一部改正に
伴い、委員会が議案を提出
することができるなど。

補正予算

一般会計796万円を増額

補正の主な内容

昭和の森山荘修繕費 156万円

昭和の日記念イベント補助金 60万円

福祉センター湯管購入費 210万円

障害者自立支援システム開発委託料 216万円

一般会計

796万2千円追加

総額

32億6,696万2千円

(全員賛成)

老人保健事業特別会計

1,465万2千円追加

総額

7億3,000万3千円

一般会計への繰入金など
(全員賛成)

内閣総理大臣・外務大臣・農林水産大臣に

意見書を提出しました

議員発議

日豪EPA・FTA交渉に対する意見書

本年から開始するとされている日豪EPA(経済連携協定)・FTA(自由貿易協定)交渉に対し、オーストラリア政府は、農産物も含む関税撤廃を強く主張するとみられています。

(略)

昭和村議会は、日豪EPA・FTA交渉に当たり、衆議院・参議院農林水産委員会決議を踏まえ、日本農業に多大な影響を与える重要品目を交渉から除外するなど、下記事項の実現に向け対策を講じるよう強く要請します。

記

1. 日豪EPA・FTA交渉に当たっては、米・小麦・牛肉・乳製品・砂糖などの農林水産物の重要品目を除外するとともに、万一、これが受け入れられない場合は、交渉を中断することを求めます。
2. 農産物貿易交渉は、農業・農村の多面的機能の発揮と国内自給による食料安全保障の確保を基本とし、各国の多様な農業が共存できる貿易ルールを確立することを求めます。

平成19年6月13日

群馬県利根郡昭和村議会

報告

昭和村土地開発公社の財政状況報告

平成18年度の事業報告書、財産目録、貸借対照表及び損益計算書、平成19年度事業計画書、会計予算書及び資金計画書の報告があり、経常経費だけの公社存続となりました。

繰越明許費繰越計算書

平成18年度予算の後期高齢者医療制度システム操出金・委託料、村道椽久保線・森下赤城原線道路改良工事費、介護保険システム改修費を19年度に繰越すもの。

一般会計

3,141万6千円

国民健康保険事業特別会計

479万3千円

介護保険特別会計

105万円

総務民生常任委員会



改築が望まれる第六分団詰所（赤城原地区）

6月8日に行われた総務民生常任委員会では、付託された請願について審査を行いました。

はじめに、今回請願書が提出されたふれあいグリーンパークと第六分団詰所の現地調査を行いました。

芝生公園整備事業

に關する調査の請願では、当局及び関係者には、説明を求めましたが、事実関係について調査期間が必要であるという意見から、全会一致継続審査としました。第六分団詰所改築のお願いでは、現在、分団詰所改築において、毎年1か所の整

備を行っているところです。詰所の整備に当たっては、陳情か所を優先するのではなく、建物の現状や危険性等総合的に判断し、随時詰所の整備をしていただくようお願いし、全会一致採択としました。

後期高齢者医療保険制度の大幅見直しを求める請願では、同制度の抜本的見直しを求めるものです。老人医療制度に代わる制度として平成20年4月1日からスタートする後期高齢者医療制度は、現在、群馬県後期高齢者医療広域連合において作業部会を設置し個別に検討を進めている段階であることを考えると趣旨採択が望ましいという意見から、全会一致趣旨採択としました。付託案件の審査終了後、沼田県民局の視察を行いました。

文教産建常任委員会

6月11日に行われた文教産建常任委員会では、付託された請願等について審査を行いました。

はじめに、今回請願書が提出された道路舗装及び排水管復旧要望

か所と用途廃止申請か所、赤城北麓土地改良区水源地区及び赤城西麓土地改良区根利川頭首工の5か所の現地調査を行った後、審査を行いました。

まず、本年3月定例



赤城北麓土地改良区第1水源地（鷹ノ巣川取水口）

会において、舗装工事をするにより、雨水等の流末処理が心配されることから継続審査となっていた入原（吹上）地区道路舗装工事のお願いについては、排水管を埋設することにより雨水等の処理ができること、また、生活用道路であることから、全会一致採択としました。

次に、日豪EPA・FTA交渉に対する陳情では、昨年12月に衆議院・参議院農林水産委員会と同様な内容の決議がなされていることや、本年5月31日開催の全国農業委員会会長大会において、この問題について特別要請の決議がされていることなどから、全会一致採択とし、日豪EPA・FTA交渉に対する意見書の提出について議員発議することにしました。

次に、村道長者久保

大河原線の道路舗装及び村道大河原赤城山線、排水管破損による復旧を求める請願では、道路舗装工事については、予算の状況を見ながら実施していただくようお願いしました。また、排水管については、赤城西麓土地改良区で設置し、村に移管されたもので、現在、排水管の復旧については県で実施していただけるように協議しているとのことでした。排水管の復旧は必要であり、県にお願いして早急に実施するよう努力していただくことで、全会一致採択しました。

続いて、道路の売払いを受けたいとの申請があつた公共用途廃止について協議を行い、既に道路としての必要性はないことや区長、隣接地権者の承諾もあることから、道路の用途廃止を全会一致



赤城西麓土地改良区 根利川頭取工

で承諾しました。

その他、イノシシ等の捕獲状況、農地保有合理化促進事業、昭和中学校への社会福祉士の配置や全国一斉学力

テストなどについて、質疑や意見が述べられました。

村づくり対策特別委員会

6月30日、議員と村づくり協力委員との意見交換会及び花いっぱい運動が行われました。

昨年12月に議員が改選されたこと、本年4月に村づくり協力委員17名のうち8名が交替されたことによるものであります。

意見交換会では、横浜市との交流事業について、質疑や要望等活発な意見が出されました。

◆横浜市と30年以上交流されているが、交流の内容は。

◆横浜招待旅行は、子供たちにとって良い経験になるので継続してほしい。

◆子供たちの交流の機会が多いが、大人の交流も考えてほしい。

◆横浜市との防災協定は、どのようなことを行うのか。

◆昭和村の新鮮野菜等をPRしてほしい。

◆横浜市等へ空家情報を提供し、その空家を利用することにより、地域の人と交流を図ることができればよい。

【議会・村への要望】

◆鹿、イノシシによる被害対策。

◆キヤノン電子(株)の温泉を村民が利用できるようならないか。

議会としても、横浜市との交流については、村づくり協力委員さんの貴重なご意見を参考に、横浜市民議団へ要望書の提出をしていきたいと思ひます。

また、花いっぱい運動では、昭和村総合運動公園の望郷ライン沿いに、約600本のサルビアの苗植えを行いました。

村づくり協力委員会の皆さん、ご協力ありがとうございました。



サルビアの苗を植えました
(総合運動公園・望郷ライン沿)

一般質問



林 幸司 議員

違法・不当な事実は隠さないために 公益通報者保護条例の制定を

問 内部告発者への報復が後を絶たず、公益通報者保護法が施行され1年。村政にかかわる違法・不当な事実は隠さないことを基本に制定を求めます。

答 村 長

できる限り情報を開示

し、職員から違法・不当な行為が判明した場合は村長まで届く体制になっています。私は開かれた行政をしており隠すことは一切ないと思っています。今後、制定自治体等を参考に十分検討していきたい。

公共施設にAED配置を

*AEDとは 自動体外式除細動器のこと。心臓の心室細動の際に電気ショックを与え、心臓の動きを戻すことを試みる医療機器

問 救急時の人命救助に効果が高いAED配置を促進してほしい。

答 村 長

村ふれあい館に1台設置、今年度は介護予防防衛行用に

1台購入予定。今後は学校など順次配備していく必要がありリースも含め検討していきます。

AED操作受講者は村内に119人。村等でも救命講習会をと考えています。

放課後子ども教室への対応は

問 学童クラブとともに拡充させていくことが必要では。

答 教育長

活動時間帯や人材確保

等を考え週1日を基本とし、日数増加は相談して進めていきたい。学童クラブ全員が放課後子ども教室を希望し、学校開放の面からも大変うまくいっています。

昭和温泉の再分析・時間改善 と無料招待券を

問 温泉法で義務付けられた再分析は。湧出量や成分の変化、排水処理は。利用時間改善策と無料招待券の発行を求めます。

答 村 長

平成6年と11年に分析試験を実施。アルカリ性単純温泉、微白濁から無色透明になったと分析された。次の再分析試験は平成20年度を予定。平成9年の揚水試験で安定揚水量毎分76・5

リでしたが、現在は毎分65リに抑えています。排水も合併処理槽で適正処理し、排水基準BOD（生物化学的酸素要求量で25mg/l以下が適性）5mg/lであり問題ありません。

利用時間は、5月1日より試験的に1時間延長し、夜9時まで営業しています。無料招待券については入館者数や利用者意見等を踏まえ委託業者を中心とした関係各位と協議していきます。

靖国DVD教材は使わないで

問 日本青年会議所のDVDアニメの歴史観は、大東亜戦争を侵略戦争ではなく自衛のための戦争で日本は悪くないと主張し靖国神社と同じ。学校で教えるべき内容ではありません。絶対に使用しないよう求めます。

答 教育長

教科書では、日本の侵略

戦争であり侵略した国の国民に多大な犠牲を出したことを教えます。そして、大戦が人類全体に多くの惨禍を及ぼしたことを踏まえ、世界平和の実現に努めることが大切であることを教えます。



高橋幸一郎 議員



総合交通体系の見直しを

問

路線バスの利用者は平成14年度9万4,000人、1日当たり257人、平成18年度6万2,000人、1日当たり169人と大幅に減少している。平成17年度の補助金が2,354万円、利用者一人当たり323円の負担となり、車両の老朽化も激しく、今後更なる経費負担が発生します。本村の交通体系を考えると、およそ6,000万円以上の経常経費が必要である。利用者の約8割が昭和村である岩本駅に、昭和村のコミュニティバスが運行されていないという現実、今後の村の発

答 村 長

展にも大きく関係するものと考え。工業団地の通勤者、昭和の湯、昭和の森等へ訪れる人たちのコミュニティバスが必要であり、効率的運用と経費削減を図りつつ、村の頭脳である職員による心のこもった総合交通体系が実現できると考えるが。

先進的な事例の調査等を含め、総合的に検討するテーブルを設け、子供から高齢者までがより効率的に利用できる運行システムの構築を検討していきたいと考えています。

問

村当局は、口を開けば「金がない、金がない、5年の辛抱、我慢」と口癖になっているが、金があれば行政は仕事ができないのかと、村民は疑問を持っている。

答 村 長

平成9年度に54億円だった一般会計予算も、平成19年度では32億円、率にして40・2%もの減少であり、行財政改革は一日たりとも猶予は許されません。議会では4名もの定数削減を実施し、村民の期待に応えるべく努力していますが、その予算が人件費に充当されることは、決して許されるべきことではありません。

行政サービスの多様化に伴い、仕事は複雑多岐となり仕事量も増加しているが、一般職員数は現在97名であり、ここ8年間で16名の減となっています。平成18年3月に策定した第3次行政改革大綱の定員管理における目標数値も達成しています。今後も定員管理に努め、更に歳出削減に努めていきたい。

自主自立財政の最重要課題は

問

文化は一朝一夕では育たず、素晴らしき先駆者による地域との融合が織りなす芸術であり、昭和の歌おこし推進委員会を設立し前向きな取り組みを求めます。

文化発信拠点創設を

また、昭和の森、千年の森周辺を「昭和文化人村」として整備し、散策、乗馬体験、自然観察、農園ができ、文化人を誘致し、村の文化を育てることが何よりも重要な課題と考えるが。

答 村 長

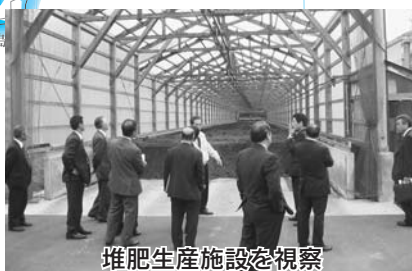
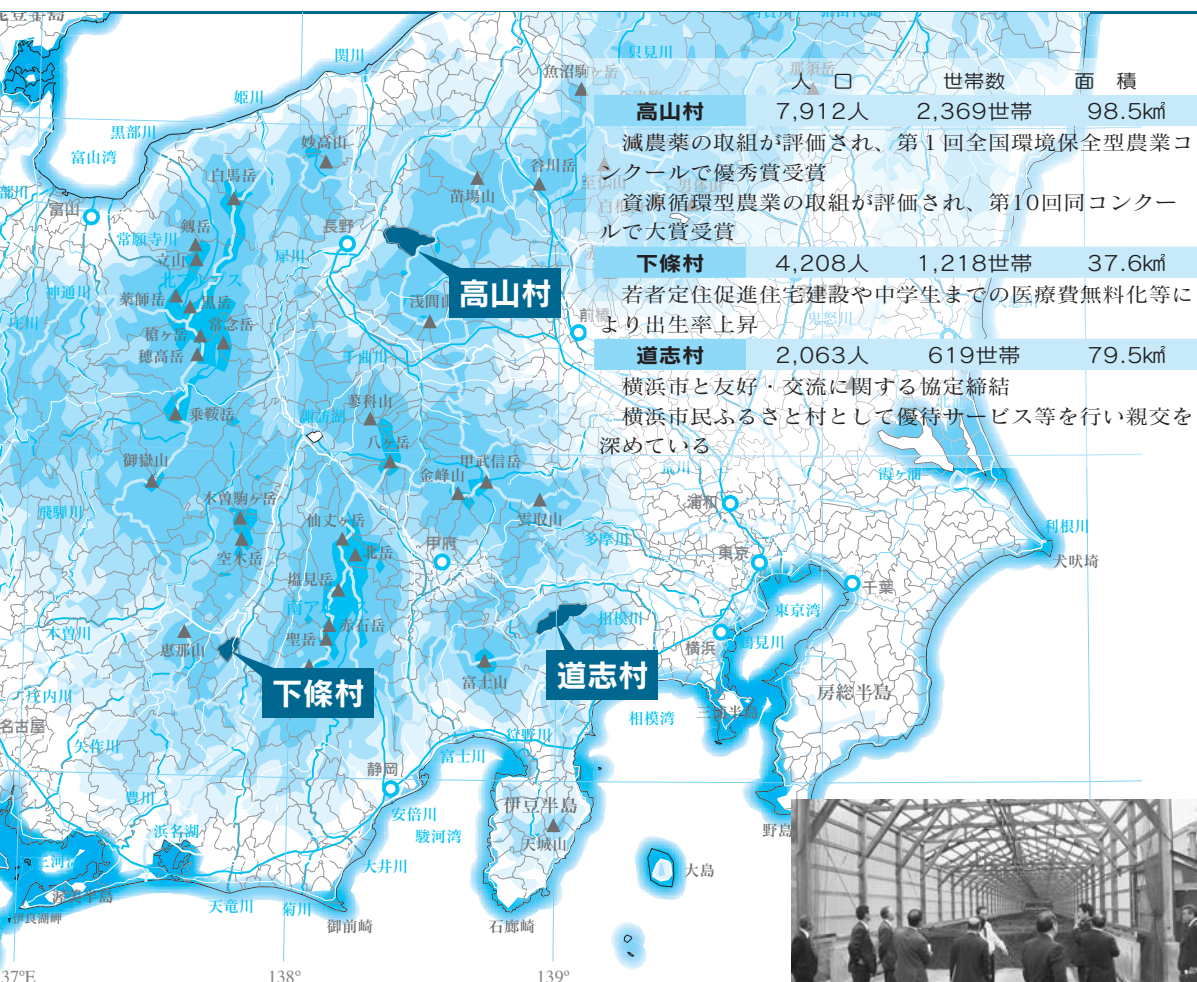
昭和の歌おこし推進委員会は、前向きに検討をしていきたい。

また、昭和の森、千年の森周辺のエリアは、自然豊

かな環境を利用した文化活動、環境問題を考える取組等の幅広い事業展開の可能性を秘めた場所でもあり、有効的に活用できるような多方面にわたる利用方法を検討していきたい。

議会視察研修報告

5月16日から18日までの3日間、常任委員会合同で長野県高山村と下條村、山梨県道志村の視察研修を行いました。



堆肥生産施設を視察

環境保全型農業の状況

長野県高山村

長野県の北東部にあり、村の三方を山に囲まれ、西南の善光寺に向かって開かれた松川扇状地に位置し、村の中心を松川が流れている。昭和31年、高井村と山田村が合併し農業を基幹産業とする高山村が誕生。

代からの高度経済成長と長野市など都市近郊の立地条件からベッドタウン化が進行し、非農家世帯が増加。そのために、家庭の生ごみ処理問題が発生。同じ時期農家も、りんご・ぶどうなどの果樹の生産拡大意欲が強く、化学肥料を中心とした施肥主体の農業へ移行し、農作物本来の味が損なわれ、病害虫の発生などで生産力の低下が懸念され始めた。

そこで、両方の問題を解決すべくコンポスト（堆肥生産施設）を設置。家庭の生ごみ等をコンポスト化し農地への還元を開始、現在に至っている。この施設は、昭和57年、新農業構造改善事業で地力増進施設として建設。生ごみ、家畜ふん、廃才

農家数は、平成17年の農林業センサスによると、専業農家108戸、兼業501戸であり、年々農家数は減少している。農作物の生産は、りんご・ぶどうが主力であり、次に米、生乳であるが、りんご・ぶどうの生産量・生産額ともに減少傾向である。

ガ粉を原料として堆肥化。その後、農業集落排水にも着手、脱水汚泥も原材料として処理を開始。平成11年から16年にかけて施設の改良増設工事を行い、現在のような高品質の堆肥が生産されている。ちなみに85日間、発酵温度70℃80度で熟成させ、水分比45%以下の完熟堆肥であり、臭いも全くない。年間販売量398トンは、すべて村内の農家に販売されている。問題点として、生ごみの中にビニールなどの異物の混入があり、実際に手作業でビニールなどの異物を取り除いているのを見ました。

平成17年全村民をあげた環境保全型資源循環型（農業の取組が評価され、第10回全国環境保全型農業コンクールで大賞（農林水産大臣賞）を受賞されたとのこと。



小さな村の大きな挑戦

長野県下條村

下條村は、長野県の最南端に位置し、飯田市街から車で約20分の距離にある。林野率7割の山村で、村を代表する産業もなく、山だけが目につくこの村が今、全国の注目の的となっている。

この2年間で180にも及ぶ視察があつたとのこと。私たちが訪れたときも、宮崎県の国富町、門川町と3町村合同の視察でありました。伊藤村長の個性

的なリーダーシップ、メリハリのきいた指導力、村民・職員と一丸となった村づくりが成功した一例である。出生率の伸びは全国有数で、若者定住促進住宅178戸の建設と中学生までの医療費無料化等の施策により、平成15年から17年では2・12人(全国平均1・25人)と、毎年50人から60人の新生児が誕生している。

人口千人当たりの職員数が8・56人と、類似団体の約半分の人数で、仕事に支障はないと説明されました。

また、資材支給事業は、住民が必要とする農道の舗装・砂利敷き、側溝布設、水路整備などの公共事業



3町村合同で行われた研修

を、村からの資材提供により住民自ら行うもので、業者に発注するのに比べ5分の1の費用で済むそうです。経費の節約できるところは徹底して節約をし、村の財政の立て直しを実行した。今では、予算額に相当する基金を有し、住みやすい村にする事業は着実に実行している。若者向けの村営住宅、若い夫婦が不便を感じず安心して生活できる環境を整えて、人口増・出生率の伸び、村の財政健全化へと着々と歩みを進めている下條村である。

昭和村には農業という基幹産業があり、工業団地も優良企業が進出し一部稼働を始めた。財政の大変厳しい時ではありますが、村一丸となつて安心な住みよい村づくりを実行していくことが望まれます。

横浜市水源の村で交流事業を学ぶ

山梨県道志村

道志村は、総面積の94%が森林であるため、森林資源の質的充実を図るとともに、地域交流への整備を進めています。別荘・キャンプ場・テニスコートなども多く、同村と友好関係にある横浜市の人たちが、村民と同一料金で利用できるなどの優遇措置も行っています。

両市村の関係は、明治30年に横浜市が道志川より取水を始めて以来続いています。平成16年6月22日、「横浜市と道志村の友好、交流に関する協定書」及び「横浜市民ふるさと村に関する覚書」が締結されています。

道志村には横浜市水道局が経営する広大な水源涵養林があり、道志川の水を横浜市民に安定して送り続けるために、重要な役割を果たしています。横浜市が平成5年、「横浜水道の源泉を守る100年の体系を樹立すべく、山梨県から山林2,800畝(村の面積の約3分の1)を取得した時から始まり90年余り。地元、道志村の協力を得て、森林の保護・育成に努めてきました。

横浜市より友好のしるしとして、昭和57年に獅子頭共用栓が寄贈されました。これは、横浜水道局が明治20年に創設されたところにイギリスから輸入したもので、共用栓として市内随所に設置され、広く市民に愛されていた貴重なものであります。当時、獅子頭共



獅子頭共用栓

用栓からほとばしる飲用水は、赤道を越えても腐らない水と褒め称えられたおいしい水であり、その水源が道志川の清流であります。このことは、横浜市民と道志村民との絆を深め現在に至っています。横浜市民によるキャンプ場や民宿・旅館等の利用は年間2万件を超えており、活発な交流の様子がうかがえます。

本村も、平成17年7月27日に、災害時における受入れのための防災協定を横浜市と締結しています。道志村での研修を生かし、横浜市との交流を推進していきたいと思っています。

村内各地に降雹被害



降雹により被害を受けたレタス畑（無惨にも葉が飛び散る）

した。被害範囲は、中野・追分・赤谷・松ノ木平地区・赤城高原サービスエリア付近と広範囲にわたり、特に工業団地やオートパル南部周辺は被害が大きかった。

ほうれん草は、生育半ばであり、商品としての回復が難しいことから被害も深刻です。

降雹による農作物の被害額

レタス 56 畝

1 億 1, 130 万円

ほうれん草 47 畝

1 億 9, 050 万円

その他（白菜・キャベツ・未成熟トウモロコシ・いちご） 10 畝

1, 090 万円

5月15日午前11時ごろ、5分から10分にわたって村内各地に雹が降り、ほうれん草、レタスに大きな被害をもたらしました。

同日、議員全員集合し、村長、副村長、農業委員会正副会長とともに被害調査を行いました。

高根沢町議会 広報特別委員会視察

栃木県塩谷郡高根沢町議会広報特別委員会（議員5名・事務局1名）が6月19日、本村

議会だよりの視察研修に訪れ、有意義な意見交換が行われました。



みなさんからの請願・陳情

自 平成19年2月5日 至 平成19年5月28日

受理番号	受理年月日	件名	請願・陳情者	紹介議員名	付託委員会	審議結果
6	H19. 2. 5	請願書 入原（吹上）地区道路舗装工事のお願いについて	平成18年度 入原区長 諸田 拓三	倉澤俊雄	文教産建	採択
13	H19. 5. 22	日豪EPA・FTA交渉に対する陳情	食とみどり、水を守る群馬県民会議 議長 坂本 棟男		文教産建	採択
14	H19. 5. 28	請願書 芝生公園整備事業に関わる調査について	角田 茂	林 幸司	総務民生	継続審査
15	H19. 5. 28	請願書 第六分団詰所改築のお願い	第六分団長 中村佳央 外4名	中里信幸	総務民生	採択
16	H19. 5. 28	村道長者久保大河原線の道路舗装及び村道大河原赤城山線、排水管破損による復旧を求める請願書	大河原区長 石井金治 外5名	高橋昇三	文教産建	採択
17	H19. 5. 28	後期高齢者医療保険制度の大幅見直しを求める請願	群馬県社会保障推進協議会 代表 野上恭道	林 幸司	総務民生	趣旨採択



女性農業委員が中心となって推進している家族経営協定

昨年12月から活躍されている3名の女性農業委員の声をお届けします。



農業委員を自覚して



新木 達子さん
(椽久保南部)

皆様には大変お世話になります。早いもので委員活動を始めて6か月が過ぎました。

初めての委員会では、手に汗を握り、体を震わせ不安で胸が張り裂ける思いで会議室へ。議題の内容、用語、意味や聞く言葉は何一つとして分かりませんでした。

また、女性農業委員の研修会での意見交換会では、皆、「最初は分かんなくても」と言いながらも自信いっぱい意見。会話は終わることなく次から次へと話題が進む。とてもよい勉強になりましたが、私には、いつになったら自信など…。

家族経営協定は、これからの若い経営者が自分で生活するのに、楽しくやがいのある農業経営の協定を結び、健康でゆとりある生活を送れるようお願いします。

これからの任務、皆様にご指導いただきながら、一生懸命頑張りたいと思いますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

女性農業委員として



加藤 英子さん
(中内出)

昨年12月、女性農業委員として任務に就き、何も分からない中、責任の重さだけを認識しているところで

女性委員として家族経営協定の推進に前向きに取り組む、農業者の家族が話し合いのもとに協定書を結ぶことによつて、各自の役割を明確にし、お互いの立場を尊重し合い、健康で明るい家庭を築き、農業だからといって昔のように休日もとらず、無報酬などということがなく、休日は有意義に過ごし、明日への活力を貯え、安心して営農ができる手助けになればと思っております。

これからの若い後継者やお嫁さんたちが、仲間をつくり生き生きと生活をしていくことができることが、農業を基幹産業としている我が村にとつては大事なことだと思っております。

女性の明るいパワーが、経営主の良きパートナーとして必ず生きてくると、私は信じています。

農業委員になつて



吉澤 信子さん
(中野下)

大役をお引受けして早半年が過ぎました。その中で、利根沼田地区の女性農業委員研修会が開かれ、意見交換会で大変緊張したことを覚えています。

議題は「食農教育・地産地消の推進について」でした。食の問題は基本的なことですが、とても奥が深く重要であると思いました。意見交換では、一人一言は必ず述べるようにとのことで、緊張し胸がドキドキ高鳴りました。多くの活発な意見が次々と出される中、私は何をどのよう話したのか分からないほどでしたが、先輩皆様のご意見を聞き大変勉強になり、また多くの人たちとの出会いの素晴らしさを感じました。

毎日忙しく働いている農業を取り巻く環境の厳しさは現実ですが、明るく元気で前向きに、しっかりと農業に根をおろして一生懸命頑張っていこうと思います。

これからもお世話になりますよろしくお願いします。

老いても

住みよい昭和村



ボランティア協議会
会長 堤 みゑさん
(入原)

「みつけようボランティア 踏み出そうはじめの一步」

過日、県の総会に出席の折に頂いたパンフレットの、表紙の言葉を思い出しました。「ボランティア」。言葉では簡単ですが、奥深く幅の広いものなのだと思います。

昭和村ボランティア協議会は、先人が築き上げてくださったことを少しずつ改善し、引き継がせていただいております。自分が楽しければ人も楽しい。また、人の楽しみは自分の楽しみ。

「昭和村って良い村ね。」と、他村の人に言われました。「それは、行政のお陰なんです。昭和村では、社会福祉協議会の事務局で大変よくお世話してくださるから。」と言ったことを覚えております。

会員は132名。年間計画に基づき頑張らせていただいております。4月は河川敷及びアクセス道路ごみ拾いから始まります。手作り弁当は、栄養のバランスを考え、食べやすい食材を選び、地区ごとに当番を定め、全員で配達をいたしております。また、花は種蒔きから管理。総合グラウンド駐車場と役場前のバス停にサルビアを咲かせて、皆さんに楽しんでいただいております。

高齢者ふれあい交流会も年3回、一人暮らしの方をお招きして楽しいひとときを過ごさせていただいております。村民皆さんのご協力を頂き、昭和の秋まつりでの福祉バザーの売上金は、社会福祉協議会に納めさせていただいております。2月の友愛訪問では、手作りの枕カバーを、80歳になられた方にお祝いとしてお届けいたしております。

このような活動の実態をお知らせいたしました。今後とも村民皆様のご協力、よろしくお願いいたします。明るい村づくりのために、ご入会もお願いいたします。

議会の動き

4月

- 5日 ●第1保育園・第2保育園・子育て保育園入園式
●議会全員協議会
- 9日 ●昭和中学校入学式
●東小学校・南小学校・大河原小学校入学式
- 11日 ●定例議長会
- 12日 ●村有財産視察
- 17日 ●議会広報編集特別委員会
- 22日 ●婚姻者記念植樹
- 29日 ●「昭和の日」イベント

5月

- 9日 ●春の道路愛護巡視
- 15日 ●電害調査

- 16日～18日 ●議会視察研修(長野県・山梨県)
- 22日～23日 ●全国町村議会議長・副議長研修会
- 27日 ●群馬県民スポーツ祭オープニング大会
- 28日 ●広域組合議会臨時会
●利根沼田学校組合議会臨時会
●昭和村敬老会
- 30日 ●議会運営委員会
- 31日～1日 ●議長・議会事務局長研修会

6月

- 3日 ●利根沼田消防ポンプ操法競技会
- 7日 ●第3回昭和村議会定例会
本会議
議会全員協議会
議会広報編集特別委員会
- 8日 ●総務民生常任委員会

- 11日 ●文教産建常任委員会
- 13日 ●本会議(最終日)
- 17日 ●子育て保育園知事来園
- 19日 ●栃木県高根沢町議会広報特別委員会視察
- 22日 ●議会広報編集特別委員会
- 23日 ●議会全員協議会
- 29日 ●新議員研修会
●千年の森スポーツセンターJ-wingsサッカー場竣工式
- 30日 ●村づくり協力委員会との意見交換会
●花いっぱい運動(サルビア苗植え)

7月

- 3日 ●定例議長会
- 9日 ●議会広報編集特別委員会
- 17日 ●議会広報編集特別委員会
- 25日～26日 ●議会広報編集特別委員会視察研修

編集室から

読みやすく親しみやすい議会だよりを目指して今回で4号目になります。実際に原稿を書いてみると、難しいことだなと実感します。

6月19日に、栃木県高根沢町議会から5人の議員さんが、私たちのところへ広報研修にきました。ベテランの方ばかりで、逆にこちらの方が勉強になった感じでした。

個人が特定できるようなアップの顔写真、特に子供の写真はプライバシー保護のために使っていないとのことでした。気を付けていかなければならない点ですが、少しさみしい感じもします。

私たち編集委員も、7月25日に岩手県金ケ崎町議会へ研修に行きます。議会広報全国コンクールで優秀賞を受賞した町です。

しっかり研修して、少しでも皆さんに親しまれる議会だよりになるように頑張ります。

中里信幸 記